

洪水阻止の堤防から 下船尾と野田の争ひ

両部落各三十戸が遂に訴訟 法律的にも興味の問題

石城郡勢崎村大字下船尾と野田の両部落は、共に藤原川の流域に沿へ、同川の水が都度何れも水災の厄に遭ひつゝ、あつたが近年同河川の改修を行はれて以來上流下流の如きは完全に其の難を免除されるに至つたところ、下流野田部落では藤原川改修の幸福に憚らず同地字「カキツカ」と下船尾字古内の相接する境界地点が北方を山に沿つて通する縣道湯本小名濃線、南は前記藤原川の岸堤が高く築かれた區間に於ける十餘間の距離を幸ひとなし去る昭和十年同所に下市七間上五間高六尺の堤防を築いて下船尾からの流れを遮断せる爲め上流地一帯が再び豪雨毎の水害に難じ、兩部落に紛争中であつたが去る六月末の洪水が右堤防のため下船尾に耕地十五町歩、家屋二戸の浸水を出だし、一と騒動が持ち上るところを同堤防の欠陥で漸く無事を見た然るに大字野田に於ては部落民三十一戸の協力で此の復舊にコンクリートの頑丈な築堤を企てられたので船尾側のこれら約三十戸が平市大嶺辯護士を代理人として該堤防撤去の訴訟を起し取敢へず現状維持の假處分が去る二十三日執行済みとなり此の間示談の方法

石城受檢聯合會が 大麥強制検査陳情

今二十九日代表者出縣

石城産の大麥は生産高の四割が去る昭和十年度から類別鑑定を實施せられつゝあるに對し無定を實施せるも生産者に未だ検査のため當業の損失甚なる目曜めざるものがあり受檢量を以て郡共同受檢聯合會が、が僅少なものと早くより縣管檢

中支視察旅行記

駒木根忠三氏より

例へば鐵道線路、殊に鐵橋は軍事上、治安上極めて重要なものでありますから警備兵はいくらでも必要です、要するにもつと兵隊を増さなければならぬと思ひました、それから支那に對して考へなければならぬことは治安と生活であり、治安を如何にして維持するか、大きな問題でありますと同時に安

日刊 九月二十五日
日刊 九月二十五日
日刊 九月二十五日
日刊 九月二十五日
日刊 九月二十五日
日刊 九月二十五日
日刊 九月二十五日
日刊 九月二十五日
日刊 九月二十五日
日刊 九月二十五日

常識講座

ノーンは石工または煉瓦師のことをも呼ぶが、全世界に於てつゞつたる秘密結社の會員を指す、表面は會員の相互扶助にあるが内部の活動は秘密である爲めに種々の疑を受く

江藤徹英師の講演會

十三日會主催
平市十三日會では来る三十日午後七時から市内マルトモホールに講演會を開催の筈であるが今回の催は浄土宗教學部長江藤徹英師の來平を好機となせるもの演題は「郷土の偉人袋中上人に就て」多數の來聴を歓迎する

戰地一漸く理解されて 談笑の間に仕事

(中) 湯本町出身 鯨岡賢司

さるにても肩巾廣き日にめぐり合せしものには、土民職工達も此頃漸く日本人(非軍人)を理解したるやの氣分にて仲よく談笑裡に仕事を勤み居り候、支那人約四百五十名、日本人約二十名にて努力致し居り候、内地にて心配せられる程もなく、水もよくたゞ當分運輸機關の完備を期し難きを以てや、物資供給に難色有之候へども長きことにはあるまじく候、此所は黄河の大支流○○の流域にて高き

君島知事の 鯨川視察

君島知事は目下工事中の石城郡鯨川堰水路視察のため来る八月四日來郡の筈だ日程左記の如くである

散華院(故半谷壽長)新盆に相當り候處誠に勝手がましき候へ共時局柄提灯其他供物等一切御辭退申上度何卒不惡御諒承願上候
昭和十三年七月 平市四丁目 マルトモ食堂 半谷すて

久實院の新盆に相當りますが時節柄提灯手提子其他供物等御贈與の儀固く御辭退申上ます
昭和十三年七月 大谷武雄

雄魂院(故利雄)儀新盆に相當り候處誠に勝手がましき候へども時局柄提灯其他供物等一切御贈與の儀固く御遠慮申上度候、
右不惡御諒承願上候、 敬具
昭和十三年七月 平市一丁目 管本庄治

法宥院儀新盆に候處時局柄提灯その他佛前の供物一切の御贈與をたく御辭退申上度候、
右不惡御諒承願上候、 敬具
昭和十三年七月 平市月見町 根本品藏

殉忠院(故龜太郎)儀新盆に候處時局柄提灯その他佛前の供物御贈與の儀固く御遠慮申上候、
右不惡御諒承願上候、 敬具
昭和十三年七月 平市研町 金成ヨシ

亡妻溫良院新盆に相當候處提灯其他佛前への御供物等一切御贈與の儀は時局柄御辭可仕候間不惡御諒承被下度願上候
昭和十三年七月 平市研町 中野惠次

風呂銭を獻金

石城郡江名町の江名料理店山口屋事志賀かつ方は昨年支那事變勃發後の九月頃から從來の銭湯を廢して主人は五錢雇人は二錢づゝの貯金を實行し毎月四、五圓づゝ貯まる右の現金を國防費に獻金してゐるが今七月分も去る二十六日町役場に寄託した

軍後援へ廿圓

平市研町一の組納稅組合では全員の發意により管理者吉村安治郎氏の名で市の軍事後援會へ金二十圓を今二十九日寄附した

君島知事は目下工事中の石城郡鯨川堰水路視察のため来る八月四日來郡の筈だ日程左記の如くである
午後二時廿分上遠野村取入口到着 同二時五十分鯨川橋サイフォン 三時五十分渡邊村釜戸サイフォン 四時半渡邊村地内國道横斷橋 泉村藤原川掛樋小名濃を経て玉川へ常日同村小瀧温泉着泊
八十九の老嫗
石城郡江名町の江名字三崎農馬目いそさん(六)は六人の子供と孫も多數あるのであるが國家の重大時に出征軍人一名も出さぬことが残念である老嫗の苦心につくり上げた横四尺三寸の羽二重の日の丸の旗二旗十餘圓を贈つて御國の役に立てたいと目下展覧會の爲め歸省中の郡出身陸軍參謀官比佐昌平氏に獻納方を託したが一般から其の赤誠を感心されてゐる

農業

間作で以て 五百貫收穫

寒地用緑肥自家
採種に今一息

山形縣農事試験場では去る昭和五年農林省の全額補助によつて寒冷地方に於ける優良緑肥の改良増殖及び施用方法に關する試験を實施したが畑作用には、

ヘヤリーベツチ、ルービン青刈大豆、水田用紫雲英等をはじめ苜蓿、セラテラ、ザード、ウキツケン、パーブルベツチ、ハンガリンアンベツチ等に關し、

主として緑肥の採種方法並びにこれが施用の方法について本場及び庄内分場の砂丘試験地で試験を行つてゐる、由來この試験は農林省が各種農産物の積極的改善増殖をはかるために全國十五ヶ地方に於て十ヶ年計畫の下に實施した事業の一つであつて此の寒冷地方の緑肥の各種試験は特に一般から成功を期待されてゐるだけに同試験場にもありても相當の苦心をもつて研究中であるが明年の試験完了を前にして今までの成績をきかれたものに語るところは、

▲即ち同試験場に於ては試験の對象として最初前記の如く數多の品種を撰んで優良品種の撰擇につとめたものである、其の結果先づ畑作の秋蒔きハヤリーベツチ、同じく春蒔きのルービン、青刈大豆及び水田用紫雲英山形一號、同二號を選定し、研究を續けたが最近に於ては同縣下を中心

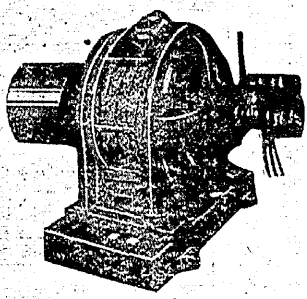
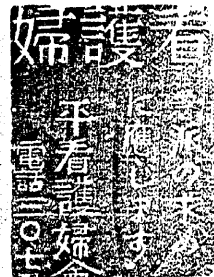
とする寒地地方に適應した緑肥の優良品種として決定づけることが出來た、

牛も豚も優良品の自慢

肉の御 三三三屋 平市 田町
用命は

藤沼醫院

平市紺屋町 電五〇七



モートル 變壓器 販賣、修理

社會資合 所工鉄藤佐

町見月市平 (番二六三話電)

大河内

平市搔槌小路
整形科醫院
電話五八八番

御婦人用 御子様用

豊富

簡單衣

陳列

ツルヤ

平電一四〇

内科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

平市田町 電話五二三番
高久病院
院長 醫學士 高久忠

帝國海上火災保險株式會社
平代理店 關内正一
平町二丁目 電話一六番
事務取扱者 阿部助次郎

安田系統の帝國海上

今般副院長として高橋俊幸氏を招聘し「内臓外科一般外科皮膚泌尿器科」の診療に従事せしむ

平病院

(平市元共濟病院跡) 電話六四一番

院長 醫學博士 鈴木定藏

内臓外科	部長 鈴木定藏
小兒科	部長 佐藤幾要司
一般外科	部長 高橋俊幸
皮膚泌尿器科	部長 鈴木定藏
物理療法科	部長 古川元雄
レントゲン科	部長 吉本孝平

藥劑科 部長 吉本孝平

診療時間 毎日午前八時より午後九時まで
夜間診療に從事す(急患は此の限にあらす)

食 喫 酒 場 兼 ね た。
茶 事。

サロシ

レストラン

町田平 二五三電

病室増築、手術室完備

産科 醫學博士 婦人科 五十嵐雄二

平市新川町「電話三六九番」

醫學博士 江尻伊三郎
平市田町 電話六九一番

皮膚泌尿器科 性病科

診療時間 午前八時より午後九時まで

院醫尻江

國民精神總動員
日本國民必見の書……

内閣情報部發行

寫真週報

1部10セン

お取次致して居ります

平 西村屋藥局 電三

債券 公債 兩替 金融

多田井質店

平市大工町 電話五九一番

和洋金銀 質屋

質屋 質屋 質屋

優良品 廉價 質屋